

## 各教科の授業内容

### 1. 国語

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することをねらいとしている。

1年次必修「現代の国語」では、主に評論を扱い、読むこと・書くこと・聞くこと・話すことを通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を身につける。

1年次必修「言語文化」では、主に小説・韻文と古典分野（古文・漢文）を扱う。基礎的な読解力を育成した上で、読み比べや作品についての批評など多様な言語活動を行っていく。古典分野では、読解に必要な文法事項を押さえながら文章の読解を行い、古典に親しむ態度を育てる。

2年次必修「論理国語」では、近代以降の論理的な文章の読解と表現の実践を行う。2年次必修「古典探究」は、古文と漢文を扱い、基礎的な学習の上に、古典を鑑賞する態度を養う。

3年次必修「論理国語」では、2年次に続き、文章の読解表現の実践を行う。また、選択科目に「文学国語」や学校設定科目の「古典読書」を置いている。「文学国語」では、主に小説を扱い、「書くこと」や「読むこと」を通して言語文化に対する理解を深め、共感する力、想像する力、表現する力などを養う。「古典読書」では、古文や漢文の読解力を高めるとともに、鑑賞力を養う。

### 2. 地理・歴史

1年次で「地理総合」、「歴史総合」、2年次で「歴史探究」を必修科目として2単位ずつ設定し、日本と世界の過去と現在を、さまざまな観点から全員が幅広く学ぶ。3年次では「日本史探究」、「世界史探究」、「地理探究」を選択科目として3～4単位設定し、各自の興味・関心や進路に応じて選択することができる。

#### ・地理

「地理総合」では、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題を学び、課題の解決に向けて構想する力などを培うことで、国際社会で主体的に生きていく持続可能な社会の形成者としての資質・能力を養う。

「地理探究」（3単位）では、「地理総合」で身に付けた学習成果を活用し、現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を地誌的に追究するとともに、現代世界における日本の国土像を展望しながら、より広く深く学ぶ。

#### ・歴史

「歴史総合」では、18世紀以降の「世界とその中の日本」を近代化・大衆化・グローバル化の視点から諸資料（諷刺画、文字資料、絵画、映像等）を活用して学習し、歴史的思考力や多角的な視野を身につけることを目指す。

「歴史探究」では、「歴史総合」で身に付けた歴史的な見方・考え方を働かせ、様々な時代の歴史的な事象について探究的な学習活動を行い、「日本史探究」「世界史探究」の学習に繋げる。

「日本史探究」（4単位）では、「歴史総合」、「歴史探究」の学習を踏まえ、諸資料を活用して、グローバルに事象を捉える視点と日本の時代を通観する視点から、日本の歴史を深く学習する。

「世界史探究」（4単位）では、「歴史総合」の学習を踏まえ、諸地域の歴史的な特質の形成、諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容という大きな枠組から世界の歴史をより深く学習する。

### 3. 公民

2年次で「公共」を必修科目として2単位設定し、3年次で「倫理」と「政治・経済」を選択科目として2単位ずつ設定して、進路に応じた学習に対応している。

「公共」では、現代における政治と経済、その中での人間としての在り方など、主権者として社会に参加するために必要な知識を学ぶとともに、諸課題に対して適切に判断し、解決する力を養う。「倫理」では、人間の存在や価値、現代に生きる人間の倫理的課題について、先哲の基本的な考え方を手がかりとして思索を深め、自己の在り方や生き方に対する自覚を深める。「政治・経済」では、社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決への手がかりとなる概念や理論などについて理解を深め、社会参画に対する自覚を深める。

### 4. 数学

基礎・基本の充実をはかるとともに、社会生活に活用される数学、文化遺産としての数学、科学を記述する言語としての数学など、数学を多面的に活用できる力を身に着け、伸ばすことを目指し、次のような内容を学習する。

1年次の必修「数学Ⅰ」では、数と式、2次関数、図形と計量、データの分析について、必修「数学A」では、図形の性質、場合の数と確率、数学と人間の活動について学習する。

2年次の必修「数学Ⅱ」では、いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分法・積分法について、必修「数学B」では、数列、統計的な推測について学習する。

3年次はすべて選択科目とし、「数学Ⅲ」では、極限、微分法、積分法について、「数学C」では、ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について学ぶ。また、「数学演習」では、数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bの復習を行い、さらに発展的な融合問題にも取り組む。

1年次必修「数学探究」では、既習範囲にとらわれず発展的・応用的な内容に取り組む中で、知的好奇心や興味関心を高め、粘り強く考える力、倫理的な思考力などを養う。これらの資質・能力は、今後、未知の課題に取り組む際に必要不可欠な創造性の基礎である。

### 5. 理科

1年次で化学分野、2年次で物理・生物分野を全員が必修で学習する。理科の主要分野を学習することで、理科の主な領域を総合化することができるとともに、その中から興味のあるもの、将来さらに深く学ぶ分野を見つけることができる。

3年次では、地学分野を含めて全て選択授業となり、各自の興味・関心、また将来の進路に合わせて2分野まで選択することができる。

#### ・物理分野

2年次の「物理基礎」では、力学・熱力学・波動・電気の各分野の基礎的な内容を学習する。確実な基礎・基本の理解を目指すとともに、適宜、発展事項も取り扱うことで、理科系志望の生徒に対しても応用力を養うことを目標としている。

3年次の「物理」では、2年次で学習した分野の発展的な内容と、電磁気・原子分野を学習する。本質的な理解を促すために、必要に応じて高度な内容も取り入れながら授業を進めていく。2・3年次ともに実験・演示等を取り入れ、現象を確認し、理解を深めることを目指す。

#### ・化学分野

1年次の「化学基礎」では、21世紀に生きる現代人の基礎教養として、中学での理科の学習をふまえ、化学の理論の基礎をミクロな視点で学習する。

3年次の「化学」では、将来自然科学を専門的に学ぶ生徒のための基礎として、有機化合物、無機物質、高分子化合物など様々な物質の性質を中心に化学を学習する。また、物

質の構造や反応についてさらに高度な理論も学習する。1・3年次とも、実際の物質に触れつつ理論を確かめるといった機会を多くするために、多くの実験を取り入れながら授業を進めていく。

#### ・生物分野

2年次の「生物基礎」では、細胞・遺伝子・体内環境・生態系などの各分野について主に基礎的な内容を学習する。

3年次の「生物」では、進化・細胞・代謝・遺伝・環境応答・生態などの各分野について、生命現象を分子のレベルから扱う分子生物学の視点に踏み込んで学習する。2、3年次ともに実験や実習を重視することで、用語や知識の暗記ではなく本質の理解を促し、最先端の研究内容の出題も目立つ近年の大学入試への対応力も身につけることを目指す。

#### ・地学分野

地球と宇宙の現在と過去を学習する。

3年次の「地学基礎」では地学の全範囲を系統的に学習するとともに、問題演習を豊富に行い、入学試験にも十分に対応できる学力をつける。なお、1・2年次の「化学基礎」「物理基礎」「生物基礎」において、各分野の関連事項として地学の内容を適宜、取り扱う。

### 6. 保健体育

「保健」および「体育」は必修で、それぞれ独立した科目として履修する。健康を保持増進し、生涯にわたって運動に楽しむ素地をつくることを目的として、授業内容が編成される。

「保健」は、1・2年次で履修する。健康の保持増進をはかるために必要な基礎的・基本的知識を理解するとともに、自ら健康課題を主体的に追求していく能力を身につける。さらに、新たな健康課題や性をめぐる問題などを取り上げ、個々のライフスタイルやライフステージに応じた望ましい行動の自己選択・自己決定が行える能力を養う。

「体育」は、運動やスポーツに対して、自発的・積極的かつ継続的に取り組む姿勢および協力・責任の精神を養うために、1・2年次で運動やスポーツの基礎を学習し、3年次では種目選択制授業を行う。

### 7. 芸術

本校の芸術科では、見失われがちであった教養教育の精神を尊重し、「表現の技能」「感性・創造性」「人間性」の育成を目指し、芸術科教育の本質と基礎実技を重視した授業を行う。

「音楽Ⅰ」、「音楽Ⅱ」、「音楽Ⅲ」「音楽表現」では、声楽、器楽、創作や鑑賞の諸活動を通じて、自己表現の可能性を追求することを第一の理念としている。「音楽研究」では、生徒の個性を生かし、より高度な技能と表現力を深める。

「美術Ⅰ」では、平面や立体、映像メディアなど各分野における表現活動を通し、美術における基礎的な知識・技能を身につけ、個性を生かしながら創造力や表現力を培う。

「美術Ⅱ」では、基礎的な知識・技能を活用し、生徒の個性や制作意図に応じた表現活動を通し、より専門的な創造力や表現力を深める。「美術Ⅲ・美術表現」では、生徒の自主性を生かし、生徒の探究課題に応じた創造活動や進路実現に向けた表現活動を通してより高度で専門的な知識や技能、表現力を高める。

「書道Ⅰ」では、漢字（楷書、行書、隸書）、仮名（平仮名、変体仮名）、漢字仮名交じりの書を学ぶ。「書道Ⅱ」では、「書道Ⅰ」の内容を深めるとともに、草書、篆書を扱う。臨書中心の学習を通して、書表現の多様性を学び、各自の感性を生かした創作を試みる。篆刻も実施し、姓名印などを制作する。

## 8. 外国語（英語）

本校の英語の授業では、英語で「聞く」「読む」「話す（やりとり・発表）」「書く」ことをバランスよく総合的に学び、3年間を通してコミュニケーション能力を育成することを目標としている。

1・2・3年次必修科目の「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、教科書の内容に関する説明が英語で行なわれ、生徒が積極的に英語を使うことが求められる。読み取った内容を基に話したり書いたりしてペアやグループで伝え合う活動をはじめ、スピーチ、スキット、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどのさまざまな言語活動に取り組み、英語で発信する力を強化していく。また、授業外での洋書の多読や、参考書・単語集・ワークブックなどの自習を通して自律的な学習態度を養う。

3年次選択科目の「英語会話」では、特にスピーキング、ライティングの発信する力をさらに伸ばすための授業を行う。授業はALTとのチーム・ティーチングで行われる。

## 9. 家庭

家庭科は、人の一生を、どの時期も独自の課題と価値を持った大切なものと考え、高校生としての現在と未来の生活を創るために必要な知識・技能を学び、自らの生活を政治や経済、科学の視点から捉えなおし、暮らしの実践に生かす教科である。

まず初めに、高校生としての生活の自立を目指す。授業時間の約2分の1を実習や実験に充て、自立した健康的な生活のための知識と技術の修得に励み、生活全体へと視野を広げる。上手下手、好き嫌いにかかわらず、ひとりの人間として生きていける基本技能を身につける。

1年次および3年次で「家庭総合（必修）」を学習する。食生活全般、高齢者、住生活と保育を扱うほか、本校独自の教材による服飾制作を通じて消費の背景を考察する。さらに、家族・家庭生活、消費経済、生活文化、マナー、調理などを、ジェンダーや福祉、環境問題などと関連させて国際社会への視野を広げつつ学び、進路や将来設計に役立てる。

## 10. 情報

現代社会では、ICT（情報通信技術）の活用は欠かせないものであり、知的基盤社会の根幹をなすものである。「情報」では、ICTをツールとして使いこなすためのICTリテラシーと、ICTの原理を理解する情報科学、そして情報に翻弄されず、法的な観点から考える情報倫理の3つを中心に学ぶ。

1年次必修科目である「情報Ⅰ」では、情報の収集・吟味・加工・発信といった情報活用に係る各プロセスを学ぶ。情報社会で主要な役割を果たしているコンピュータを用いた実習や創作活動を主軸とし、情報処理の仕組みや表現方法を理解し、プログラミングやデータサイエンスなど、コンピュータを効果的に活用した問題解決の方法を習得する。

また、文字・音声・映像といった各種メディアの特性を認識し、図書館・データベース等の活用、機械学習の技術によるデータの分析・予測や可視化といったことを行い、外部への発表や実践演習を経て、実社会における情報活用の手段の基礎を身につける。

3年次選択科目である「情報Ⅱ」では、「情報Ⅰ」で学んだ内容を発展させ、第一線で稼働している情報システムについて、理解を深め、生徒自らも情報システムを活用したり、ネットワークやデータベースを構築する技術を習得する。

さらに、AIを実現する技術である機械学習や深層学習について理解を深め、これらの技術とビッグデータを活用して、新たな技術や知識の創造に挑戦する。

## 11. 課題研究（学校設定教科）

科学的思考・技能をもとに、自ら課題を見つける力、探究的な学習に主体的・総合的に取り組む姿勢・技能を培うと同時に、さまざまな課題を解決する資質や能力を養うことを目的とする。

1年次の「課題研究入門（必修1単位）」は、高大連携科目として位置づけ、探究活動における課題設定や望ましいキャリア形成を目的に「問いを立てる」というテーマで、お茶の水女子大学の全学部の教員による特別講義を実施する。「課題研究Ⅰ（必修2単位）」では、観察や実験、データ処理等の、探究的な学習に必要な技能を体験的に身につける。2年次の「課題研究Ⅱ（必修3単位）」では、1年次に身につけた技能を活かして、自らの関心に沿った探究的な学習に取り組む。3年次に「課題研究Ⅲ（選択1単位）」を履修し、2年次の課題研究をさらに深化させることもできる。

## 12. 総合的な探究の時間

各教科・科目の学びを統合し、社会に有為な女性としての資質・能力を養うことをめざす。3年次の「総合的な探究の時間（必修1単位）」では、クラスでのディスカッション等の協働的な学びを通して、各教科・科目、課題研究等における学びを統合するとともに、合意形成の能力を育む。